

全国衛生化学技術協議会（全化協）年会、長野で開催

広報担当 宮原 誠



写真1 開会の会長挨拶を行う大野所長
長野市アクティーホールにて撮影 2011年

11月10日から2日間、長野市の長野県農協ビルで第48回全国衛生化学技術協議会（全化協）年会が開催された。71の地方衛生試験研究機関等の研究者や技術者などを中心に275名が全国から参加して、129件の研究成果が発表された。

年会長の長野県環境保全研究所長荒井高樹氏から開催の挨拶があり、次いで、大野所長から会長挨拶があり、3月11に発生した東日本大震災と福島第一原子力発電所事故により被災した方々にお見舞い

の言葉が述べられた後、被害地域とその周辺の衛生研究所は地域の医療、環境・食品衛生の安全確保に重要な役割を果たしたと敬意が示され、係る事態に直面した経験を整理・共有し、今後の糧とするための会合となるだろうとの期待が示された。長野県健康福祉部長三村保氏から開催の祝辞が述べられた後、定例の議事が行われた。次期年会長香川県環境保健研究センター長中林正一氏から来年の開催地高松への参加招請が行われ、総会が終了した。

研究発表に先立ちシンポジウムが開かれ、本研究所食品衛生管理部の山本茂貴部長から“食品中の放射性物質の規制値への対応”について講演があり、福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質による食品汚染に関連し、それらの規制値設定の考え方が説明された。続いて国立保健医療科学院の樫田尚樹氏により“飲料水中の放射性物質の暫定規制値への対応”、本研究所代謝生化学部 蜂須賀暁子氏により“食品中の放射性物質の測定法について”、埼玉県衛生研究所 三宅定明氏により“食品中放射性同位元素測定の実態について”の講演が行われた。

特別講演として佐久間象山に関する講演が“幕末の先覚者—世界を見つめた佐久間象山—”という題名で長野県立歴史館の山崎会理専門主事兼学芸員によって行われた。講演で、象山は勝海舟・吉田松陰などの先生で、長野県歌“信濃の国”に歌われる長野の偉人であると紹介された。さらに、江戸幕府の海外政策に対する彼の提言「海防八策」を中心に、現在の立場にとらわれない壮大な発想について解説された。

二日目は部門ごとに、研究発表と自由集會が開催され、盛会の内に閉会した。



写真2 佐久間象山銅像
長野市八幡原史跡公園にて撮影
2011年